

平成 28 年 10 月 2 日（日） 光明台南校区 タウンミーティング 参加者 32 名

【市長との意見交換】

市民：市長に、お出かけ応援バスということをお願いしたい。堺市内は平成 16 年から実施されている。堺市内からバスに乗って、南海バス、近鉄もあるそうで、南海バスを堺市内で乗って和泉市内で降りても、その逆でも 100 円で実施されている。堺市内の知人に聞いたら 65 歳以上が対象とされていて、対象者には IC カードを配布し、一人千円という状況とのこと。和泉市としてそういう取組みのお考えはないかとお聞きしたい。財源の問題もあるが、市長の見解を述べて頂きたい。

市長：応援バスについては、和泉市も路線バスのない所はめぐーというコミュニティバスを走らせて頂いているが、なかなかカバーできない部分もあり、また趣旨も違う所もある。お出かけ応援バスというのは、高齢者の方がお出かけをするサポートするバスということ。世界一の長寿国になっているというものの、健康寿命を延ばしていかなばだめで、高齢者で 10 年も寝たきりとか、体が不自由であり幸せを感じられないというのでなく、亡くなる直前まで元気で過ごすことが大切。そのためには、外へ足を使って出かけて行くということと、いろんな人と交流するということが、この 2 つが大切だと言われている。今、男性で一番高齢の県が長野県の時があって、沖縄ではなく、なぜ長野県が一番だったかということ、高齢者の就労率が一番だったとのこと。仕事もっておられる高齢者が一番多い。やはり社会に出て役に立つ、足を使って体の健康維持をする。そのためには自分の車を運転すると危ない。出ていく交通手段が必要。めぐーだけではできない。IC チップが南海で使えるようになった。和泉市も助成して、読み取り機械を南海バスに今設置しているので高齢者の方がいくら使ったか、南海バスと精算でき、わかるような仕組みになっている。ただ財源の問題とかこれからの考え方の整理、コミュニティバスと応援バスをどういう位置づけでやっていくのかということも、すでに公共交通機関プロジェクトを作り、市内の町会連合会にも入って頂き、議論して頂いて、そういう俎上にも乗せながら、高齢者のお出かけ応援の仕組みづくりに前向きに取り組んでいきたいと思っている。もう少しお時間を頂ければと思う。決してお出かけ応援バスか、めぐーか、どちらかを選択してくださいということではなく、両方できるように考えて行きたいと思う。

市民：了解した。可能であれば 1 年後の平成 29 年か平成 30 年位までで要望したい。

市民：昨日救命講習に行ったときにご意見があったのだが、AED の設置場所について、24 時間使えるように交番においていただけるといいなと思う。消防からそれは言えないと言われたので、市の方でそういうことを考えて頂ければと思う。24 時間使えて泥棒にも盗まれない場所を考えていただけませんか。

市長：交番は管轄が違うが、交番は 24 時間開いているが巡回しているので誰もいないときが多く、一概に安全とは言えない。

市民：老人バス優待券の発行を実施してほしい。8月1日に和泉市市民病院で心臓検査、自転車こぎをした。8月5日に同病院検査結果を聞きに光明台3丁目センター前より南海バス乗車、市民病院前で下車350円、往復700円。検査結果を聞きに行くときの病院支払は70円。バス代700円。帰りの南海バスで同席した人が堺市の老人優待証を示されたので、聞くと光明池駅まで100円、病院まで往復200円との事。同じバスに乗り、堺在住の方は終点まで乗って100円。同じ和泉市の路線バスに乗っていてあまりに差のひどさに堺市の老人がうらやましいが、私は和泉市が大好きなので住んでいる。堺は政令都市だからとのこと。高齢者のこの差を目の前で実感した。思わず2駅手前の北小学校前で下車したら310円だった。8月5日の暑い中2駅歩いて帰った。それからめぐーるバスが発足。当時の100円バスが2年過ぎると160円に値上げ。光明池駅に行かないで車庫止まり。車庫の近くは墓地が有りさみしい所。車庫発で和泉中央駅まで45分かかる。1日4往復、中央駅発は4時が最終でそれを過ぎれば光明台には帰れない。泉北高速で光明駅、それから普通バスに乗り換えるとかかなりの費用がかかる。高齢者は出歩かないようにと言うのか。堺のようにお出かけバス、タクシー乗合もなく、中央駅よりタクシーに乗ると1800円かかる。年金生活者は苦しい。私の生きている間に優待券発行をお願いしたい。

市長：考えていきたいと思っている。すべてを他市と比較するのは難しい。和泉市の方が堺市より安いこともあるし、堺市の方が充実しているものもあります。そういう比較ということではなくて、和泉市はこれからも高齢者の方々に住みやすい町であるべきと思っており、そのためにも健康を維持して頂く、お出かけ頂ける、そういう制度を考えていきたいと思うので、応援バスには検討課題として話を前向きに進めていきたいと思う。

市民：こどもが光明台南小学校に通っていて、肢体不自由で車いすの生活しているが、地域でやらせたいと支援学校ではなく、地域に来たが、設備の面ではエレベータもないし、了承して入ったが、いざ学校生活を送るにあたって今二階の教室になっているが、上るときに不便が生じたり、良く動く子なので、先生が持ち上げてくれることもあるのだが、先生に責任を問わないつもりだが、先生がもし万一落としたらお互い悲しい思いをするのはわかっている。わかっているのに毎日お願いするのも、どうしようと日々思っている。エレベータをすぐつけられる金額ではない、耐震工事で学校の順番でないと聞いたが、まず車いすの子どもに必要な所に耐震工事等をしていただいてエレベータ設置をしていただけたらと思っているが、どうしたら学校にエレベータがつくか相談したくて来た。

市民：周りを見ていると、健常児と障がいをお持ちの方と一緒に教育されることは教育全体の面から見てかなりいい事だと思う。南校区だけでなく、和泉市全体で教育の面から見て、財政の事もあるが、今一番直近で困っている校区の方からお願いできないか。

市長：これは、全体の話になってくると思う。私も当然その話を聞かせて頂いたら、設置したい気持ちは山々。バリアフリーは当たり前のことだが、しかしながら現在和泉市でエレベータというと、青葉はつが野小学校には有るのだが、時期を見て建てていくのがこれからの全体での取り組みかと思う。気持ち的にはそうしたい、やりたと思うが、財政的な計画も立てて行かないといけないので、平成 32 年以降大規模改修をしていくのでその時に行っていきたいと考えている所。現在は階段昇降機を使っていたらということ、応急処置的にはなるのだが、全体的な話でこれから持ち帰って、今どれだけのこどもが障がいを持たれていて、エレベータを必要としているのか、光明台南だけでもそれでいけるなら、早く取り組んでいきたいと思う。即答できる問題ではないので、もう少し検討させていただきたい。

市民：今の追加の話となるが、今回の問題も P T A の有志・自治会からも署名運動しようとなっている。命にかかわって、もし明日転んで大変なことになるとしたら大変な汚点であり、これを考えると予算の関係は確かに平成 32 年度ということで、数字はできるが補正とか方法論がいろいろあるかと思うのだが、命に係わる問題として、是非早急なる検討を始めて頂きたい。

市民：同じ南小学校に息子がいる。昇降機を使うと 1 階から 2 階へ上がるのに 20 分かかる。1 時間の授業が 45 分。健常児の子は 45 分授業を受けられる。授業を受けるという人権そのものが奪われてる状況。今は昇降機を使わずに上るしかないという現状なので、私たちの気持ちを汲んで頂きたいと思う。

市長：おっしゃる通りで私も同じ気持ち。全体的な事の中で話を求めて行かないといけない。こういう場で何も計画も無しに、はいわかりましたというお答えは返せない。そこはご理解を頂きたい。

市民：青パトの件だが、地域で犯罪抑止のために南校区もかなり熱心にやっている。やはり財政的なものがあり、支援金は自治会や福祉団体から出しているが、車がどうしても走行距離が来るとつぶれてしまう。そのための資金に困っている。市として何らかの防犯組織があると思うが、何らかの援助を考えて頂きたい。もう一点、軽自動車税の減免は考えられないか。法的な問題で、軽自動車税が減免できないというならそれに代わる補助をお願いしたい。

市長：青色防犯パトカーについての減免。青パトは本当にありがたい活動だと思っている。和泉市の青色防犯パトロールカーの台数は府内で突出している。大阪市は規模が大きいが、それと比較しても和泉市人口当たりの台数は本当に多く、市長会合等でも話が出て、和泉市はすごい、どうしてそんなに青色防犯パトカーを設置できるのかと聞かれるが、市民の皆様方が協力して頂いているからとお答えする。そういう点で我々できることは精一杯させて頂きたいと思う。減免もそれほど難しいことでもないのだが、ただそれをやるべきかどうか検討して、やるべきことであれば。今でも障がいを持たれた方の軽自動車税を 2、3 年位前から減免しているはずで、制度的

にはできないこともないので、その辺の理由付けをきっちりして、車を出して頂いてる方もあるので、どういう青色防犯パトカーができるのか、ご質問もいただいたので検討していく。地域の防犯は地域が支えるという典型的な事例。

市民：今日は第5次の総合計画を説明頂いたが、感じる事は広報いずみが最近イメージが変わり、同じようにこれを見て、なかなか感じが何とも言えない存在感があるものだと思う。和泉市のまとめ方はこういう12345となっている、キーワードが躍進というキーワードになっている。今年度から動くということで、一番最後に都市経営の刷新。さっきのエレベータの事も絡んでくると思うが、一番上の既存ストックの云々とあり、6行目に公共施設等の適正配置。要らない公共施設はいらないとされている。新しい物を取り入れて、必要なものは取り上げていけないといけないので、さっきのエレベータもそうかもしれない。1つ意見を申し上げると、交流センター老人世代だけでなく若い人も使えるような施設を市内各所に作っていくのが時代ではないかと思う。伊丹、尼崎、西宮、芦屋を見て、和泉市は住民を大切にしている、老人センター集会所があるが、今そういうことではなくもっと幅広い集会施設を充実させて作っていくと。光明台も是非してほしいこともあるし市内全体も。建物も建て替えるところがあったら今までの規模ではなく、昔で言う公民館、会議室を合わせたものを作ってほしいと思う。

市長：20年位でいろんな公共施設を今のままで建て替えると約600億円を要し、とてもできないので、そういう点でも適正配置をして見直しを進めて行かねばならない。ある議員からはもっと大胆な発想も頂いており、泉大津市と和泉市がいっしょになって、二つの市民会館を1つにしたらどうかという提案を頂いている。少子化が進んでいく中で、施設分離型の小中学校、今おっしゃった老人集会所も小学校区に1つあるが、老人だけでなく、高齢化して行っても老人も少なくなっていくし、地域のコミュニティの場としてこども会や、若年層の人が集えるようなコミュニティの居場所、そういうものに老人集会所も変えて行く必要がある。内部的にも研究しているところで、おっしゃる通りだと考える。

市民：先日新聞で、今年度から高石と一緒に受診事業をされると載っていた。その中で対象者が40歳以上で2万7千人、大腸がんだけ、ということだが、今後拡大されていく予定はあるか。

市長：NHKでも放映して頂いたが、国の方が提案した全国で初めての新しい事業で、SIBと言うのだが、民間のノウハウを活用して実施する。少しややこしい仕組みなのだが、今回は、日本財団が1000万円を民間の事業者に出資して、民間事業者がさらに委託先を決めて、そこへ出資する、大腸がんの受診率を上げていこうという事業。その事業の成果が上がったら、和泉市がそれに対して委託料をお支払いし、その委託料を日本財団に返す。日本財団は出資して、事業を実施して、出資に応じたキックバックがもらえる事業。通常は行政が予算を付けてやっていると、成果が出ても

出なくてもその事業費は必要だが、今回はそうではなく、成果が出たら委託料を支払うが、成果が出なかったら少ししか払わないという、非常にリスクを分散する事業。今回は大腸がんの受診率を上げていこうという趣旨で、高石市とやるが、成果が上がれば違う事業にも **SIB** の仕組みを取り入れていきたいと思う。